



言葉で考える力や他人の気持ちを想像する力が育ち始める3歳児



からだ

自由に体を動かして2つの動作が一度にできる。

全身のバランスが整い始め、跳んだり跳ねたりが自由にできるようになります。また、2つの動作を1つにまとめ上げる力が育ち始めます。

ことば

言葉が著しく発達し、気持ちを言葉で表現し始める。

長い文章や複雑な言葉を話すようになり、ものを考える道具として言葉を使いはじめます。さらに大人の会話や絵本に触れ合う経験のなかで、言葉の数や興味がどんどん増えていきます。

社会性

他人の存在や気持ちに気づき理解しようとし始める。

自分以外の人にも自我があることに気づきます。ケンカは増えますが、誰かが間に入り仲直りすることでお互いの自我を認めあうようになります。次第に想像力が働き、相手の気持ちを理解しようとし始めます。



◇言葉で考える力を育むハラハラドキドキの物語絵本

文にじっくりと耳を傾け、絵をよく見て、自分のイメージと重ねて、ハラハラドキドキする気持ちを味わえるような物語絵本がおすすめです。

◇ファンタジーや冒険もの、昔話など、さまざまな種類の絵本

江南市立図書館スタッフが選んだ

3歳児のおすすめ絵本



『いらいらばいばい』

つむばば/さく・え

日本アンガーマネジメント協会/監修

鈴木出版 (E1)

やだやだ、いらいら、むかっ…。この気持ち、どうしたらいい？ インスタグラマー・つむばばが、5つの魔法メロッドと怒るときのルールを伝える、3歳からの感情マネジメント絵本。幼少期から始める心のトレーニングに役立つ。



『おうさまのたからもの』

糟谷奈美/絵と文

至光社

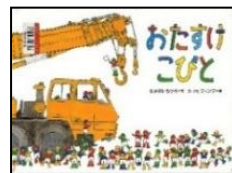
(Eオ)

『おたすけこびと』

ながわちひろ/文

ココセジユンジ/絵

徳間書店 (Eホ)



『おしがきふくをかいにきた』

田中達也/作

白泉社 (Eオ)

おしがき服を買いにお店にやってきた。数あるすしネタから、何に変身するのかな？ アイスクリームやいちごたちも、愉快なお買い物を楽しみ…。身近なものを本物そっくりの何かに見立てる、楽しい写真絵本。



『かくれているよ海のなか』

高久至/しゃしん

かんちくたかこ/ぶん

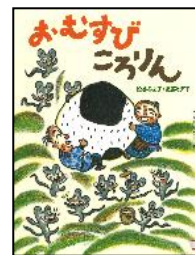
アリス館 (Eカ)

『カどこいった？』

鈴木のりたけ/作・絵

小学館

(Eカ)



『おむすびころりん』

松谷みよこ/〔著〕 長野ヒデ子/〔画〕

童心社 (Eオ)

むかし、ばあさまが山で仕事をしているじいさまへおむすびを届けに行った。ところが、足をすべらして転んだとたん、おむすびが転げて穴の中へ。すると穴の中から、歌声が聞こえてきた…。



『かみさまからの おくりもの』

ひぐちみちこ/著

こぐま社

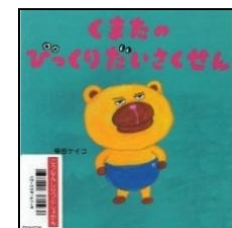
(Eカ)

『くまたのびっくりだいさくせん』

柴田ケイコ/著

白泉社

(Eク)



『カメレオンのかきごりや』

谷口智則/作

アリス館 (Eカ)

旅するかき氷やのカメレオン。世界中で集めた、色とりどりのシロップが店のじまん。元気のないサルくんには、レモンやバナナ、はちみつや黄色いシロップの太陽かき氷を差し出す。かき氷を食べると、すてきなことが起こり…。



『ごめんね!』

ノルベルト・ランダ/作

ティム・ワーンズ/絵 三辺律子/訳

ブロンズ新社 (Eコ)

『じぶんだけのいろ』

レオニエニ/作

谷川俊太郎/訳

好学社 (Eシ)



『ごはん』

平野恵理子/作

福音館書店 (Eコ)

具をごはんと一緒に炊き込んだ「たきこみごはん」、豪快に食べられる「どんぶりもの」、体が弱ったときにぴったりな「おかゆ」…。おいしいそうなごはんがいっぱいの絵本。



『どうぶつあいうえおえほん』

ひがしかずこ/ぶん

デイヴィッド・ウォーカー/え

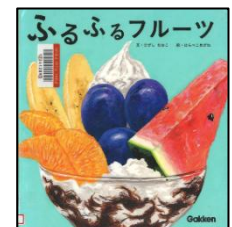
岩崎書店 (Eト)

『ふるふるフルーツ』

ひがしなおこ/文

はらぺこめがね/絵

Gakken (Eフ)

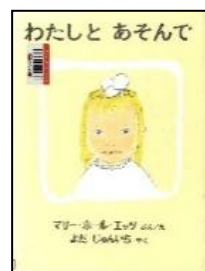


『Xくん』

坂野春香/ぶん・え

三恵社 (Eハ)

Xくんの仕事は、間違いにXをつけること。一生懸命働いたのに、人間は「Xなんて、なくなってくればいいのに」と言う。Xくんはへこんだり、腹が立ったりしたが、女の子に「Xは成功のもと。Xくんありがとう」と言われ…。



『わたしとあそんで』

マリー・ホール・エッツ/ぶんえ

よだじゅんいち/やく

福音館書店 (Eワ)

『わたしのワンピース』

にしきまかよこ/えとぶん

こぐま社

(Eワ)

